



NEWSLETTER SPECIAL EDITION

2019 グローバル女性人材養成プログラム(ベトナム)特集

2019年8月15日(木)～28日(水)の14日間、協定校であるハノイ貿易大学(ベトナム)にて研修が行われました。

「ベトナムの発展とアジアにおける協力」をテーマとした内容で、18名の学生が参加しました。

プログラムの内容と共に、学生の感想を紹介します。

SCHEDULE

8/15	ベトナム到着	8/22	ベトナム人学生のための日本文化講義 シティツアー (タンロン遺跡・文廟見学)
8/16	オリエンテーション	8/23-24	慈善活動 チャンアン、ニンビン見学
8/17-18	ハロン湾見学	8/26	ベトナム料理実習
8/19	講義「ベトナム概覧」 シティツアー (女性史博物館・水上人形劇)	8/27	講義「ベトナムの手工芸村」 バツチャン陶器村訪問
8/20	講義「ベトナム経済概観」 企業訪問	8/28	閉会式
8/21	講義「旋律で聴くベトナム」 民俗学博物館見学		



MOTIVE

ベトナムという国の文化や歴史を知ること、現地の学生との交流を目的として参加した学生が多かったようです。また、異文化に触れることで自分の視野を広げたい、語学を身につけるきっかけにしたいという学生もいました。

ベトナムの文化を知りたい
現地の学生と文化交流をしたい
語学を身につけるきっかけにしたい



海外旅行や研修の経験がほぼなかったので、きちんとしたプランで先生にいろいろなことを教えていただける今回の研修で、海外に行けたらいいなと思った。

1回生の時にベトナム人留学生の方のホームステイ受け入れやベトナム語の授業を受けたことで、ベトナムの文化に興味を持ち、それを自分の肌で体感してみたいと思って参加しました。

海外の文化を直接肌で感じて、多様な文化を知ること、それと同時に日本について改めて考えること。研修内容を通じて、今後の学びや進路について考えるきっかけにすること。



日本にただいるだけでは感じることをできない、アジア地域での人々の暮らしや生活環境の様子を実感してみたいと思ったため。

日本以外の国で生活することによって、異文化を体験し、自身の視野を広げること。また、現地の食文化について観察すること。

LECTURE & ACTIVITY

研修内での講義は、ベトナムの文化、歴史、経済を中心に行われました。また、ハロン湾、タンロン遺跡等へのフィールドトリップや、ベトナム料理実習体験などを通して、ベトナムについてより深く知る機会を得ました。参加学生に人気だったのは、「チャンアン・ニンビン見学」、「企業訪問」などでした。講義では、「ベトナム経済概観」が良かったと記述している学生が多かったです。

ハロン湾では船に乗ってハロン湾の景色を見たのが印象的だった。**鍾乳洞に入るのは初めてで大変神秘的であった。**カメラを持参していた研修参加者が多く、綺麗な写真をたくさん撮ってもらい、思い出になった。夜に乗ったケーブルカーから見た景色も素晴らしかった。ニンビンのホテルもハロン湾でのホテルもグレードが高く贅沢な時間を過ごせた。



企業訪問で訪れたTOTOベトナムの工場では、**ベトナム人の国民性を活かした人材配置がされていたり**、ベトナムの経済状況に合わせた方策がとられていたりして興味深かったです。音楽の講義ではベトナムの伝統楽器を自分で演奏する機会もあって楽しかったです。料理実習でも自身でベトナム料理を作るという点が良かったです。

ベトナムの伝統的な衣装である**アオザイ**を着用して、歴史的建造物に訪れるなど、思い出を作ることができた。



TOTOベトナムの工場では、成果を数字や帽子の色で表すなど、**勤勉でピュアな国民性に合わせた制度を導入している工夫が興味深かった。**



ベトナムの経済についてはほとんど知識がなかったので詳しく知ることが出来て良かった。また、**日本の授業ではあまりない参加型で授業内容を聞いた後に発表する必要があり、その内容だけでなく方法も非常に勉強になった。**世界遺産は日本にはない広大な自然を体感できてよかった。民族博物館はベトナム人のチューターの方々と回ることが出来たので現地の方の意見を聞くことが出来て良かった。

ハノイ貿易大学の学生との交流は、英語と日本語を用いて行った。今まで海外の方とゆっくり会話をすることがなかったので、**同世代の多国籍の人と話し、とても楽しく、いい思い出になった。**日本文化やベトナム文化の理解にもつながり、とても勉強になった。

INTERACTION WITH STUDENTS IN VIETNAM

ハノイ貿易大学の学生と交流することで、たくさんの刺激を受け、自分に何が必要かを考える機会になったようです。

ベトナム人は真面目だとよく特徴づけられますが、現地の学生さんと一緒に過ごしたことで、本当に真面目で誠意があると思いました。博物館でガイドの学生さんが先回りして展示物について調べてくれ、詳しく解説しようとしてくれました。研修中に私は体調を崩してしまったのですが、気にかけて声をかけてくれました。言語も文化も違って扱いくかったと思いますが、**私たちのガイドをするという仕事に対して誠意をもって取り組んでくれました。**

現地の学生の英語力の高さに驚いた。貿易大学の学生は基本的に英語を習得しているのだから英語であれば通じるという旨の説明があり、その言葉通り、どの学生も英語での会話については申し分なかった。日本の大学で同じことが言えるかと考えると、難しいのではないかなと思った。授業に関して、アクティブラーニングが基本であるとのことで、私を含め、**日本の学生にもこのような積極的な学ぶ姿勢が必要なのではないか**と感じた。言語の習得においては、これからはリスニングとスピーキングを強化していこうと思った。

私はDongTrang寺での慈善活動が印象的だった。年齢もさまざまなお寺の子供たちと、こちらも学校学部さまざまな学生が混ざり合っ、今まで学校やホテル周辺で出会った人々とは違う、本当に日本語も英語も通じない子供たち相手に、水風船一つで盛り上がり遊んでいたことが、深く心に残っている。**こんなバラバラな人々が言葉を介さずとも気持ちを持ちをひとつにできる瞬間があるのだと、感動した。**

まず、**現地の大学生がとてもフレンドリーで積極的だったことに驚きました。**ホテルで会ってすぐに話しかけてくれたり、街を歩いているとき隣になったら向こうから話しかけてくれたり、昼ご飯に誘ってくれたりとても気さくだったのが印象的です。また、日本についてとても関心があり、積極的に聞いていたことが印象的でした。また、**他大学の学生は行動力とコミュニケーション能力が高くて驚きました。**引率者がいない中自分たちで判断して行動しているのがかっこよく、常に引率されている自分が恥ずかしくなりました。

DISCOVERY IN VIETNAM

2週間のプログラム期間中、ベトナムの人や文化、歴史についてたくさんの発見をし、今までの自分の常識や日本での生活と比較したことで、ベトナムだけでなく日本についても考えるきっかけとなったようです。

現地で生活してみて、ベトナム人はとても気さくで、陽気であることが素敵な国民性だと思った。ベトナムは世界の幸福度ランキングでブータンに次いで2位らしく、お店の人も、ホテルの人も明るくて、穏やかな人が多かった。日本人は常にピリピリしているように思うが、ベトナムではおおらかになれると感じた。また、**女性に対して偏見がない、むしろ女性のほうが力があることに驚いた。**女性でもはっきり意見するし、自立しているように感じた。日本の女性のように、仕事ではスーツを着て必ずストッキングを履く、アクセサリーはつけないというような暗黙のルールもなく、好きな服を着て自由に働いている印象があり、女性が社会で認められていると実感した。日本は仕事に直接関係ないのに細かな窮屈なルールに縛られているなども感じた。そのようなおおらかさは日本にはないもので、でも反対に効率的であるとも思ったし、日本でも見習うべきところではないかと感じた。

ベトナムと日本ではもちろん違うところがたくさんありますが、特に印象に残ったのがベトナムの人々の自由な明るさと町全体の雰囲気も含めた良い意味でのゆるさです。大学では、学生さんたちの明るい笑顔や大人数の前で一人で歌ってしまうなど積極的で楽しそうな様子を多く見ました。周りの目を気にしたり、空気を読んで合わせたりしてしまう日本とは対照的なことも多く、もし私もベトナムで育ったらまた違った性格になっていたのかなと、**素のままに自分を出しているベトナムの人たちがうらやましくなったりもしました。**また町中に出ると、歩行者は慣れるまで中々道を横断することが難しいほど大量で交通ルールを守っているか微妙なバイクの群れ、店内に座りこんで持参した夕飯を食べるコンビニ店員、屋間から道端のお茶屋さんにたむろしたり、バイクの上で器用に昼寝しているおじさんたち、ちょうど勝負所だったのかスマホゲームをプレイしながら夕食のお会計をしてくれたり、冗談を言い合えるほど仲良くなるような自由でおおらかな面にも度々出会いました。ここまでとはいかなくても、日本にももう少しゆとりがあってもいいのかなとも感じました。



ベトナムにきて、最初に驚いたのは、圧倒的なバイクの交通量でした。信号があってもないようなもので、ぶつからずに通行できるかがとても不安でした。街を歩くと、歩道にはバイクが大量に止めてあったり、また、店の飲食スペースが歩道にあたり、とても衝撃的でした。また、道でものを売っていたり、自転車でものを売っている人がいたり、日本との差を大きく感じました。一般道の真ん中で、バスが切り返しを行ったり、バックをしたり、日本では絶対に交通ルール違反であることも普通に行われており、事故が起こらないのが不思議でした。また、現地の学生と本屋やスーパーマーケットに行ったのですが、日本の本がベトナム語に翻訳されて出版されていたり、スーパーマーケットに日本製品が売られていたり、日本とのかわりも感じることができました。スーパーマーケットでは、荷物の持ち込みが制限されていることや、レジでの金額の端数が切り捨て、切り上げで計算されていることも、日本と異なっていると感じました。しかし、**全体的にはおおらかな国だという印象を受け、東南アジアならではの活気あふれた都市であることがわかりました。**



ベトナムでは食事もおいしく、現地の方々にも優しくしていただき、とてもいい気分です。二週間を過ごせた。初めは海外に慣れていないため、いろいろなことを怖いと思っていたので、素直に楽しめたことが嬉しい。ベトナムの生活は日本とは全く違い、戸惑うかと思ったが、その一つ一つを面白いな、これはこれでいいな、と思えたこともよかった。私は海外にあまり興味がなかったが、行って初めて分かったことがあるということを知れたし、人と交流することもそんなに得意ではないが、多くの人と会うことの大切さも知れた。これから**私はベトナムという国に対して今までとは全く違った親しみを覚えることができるし、実際に言った景色や、なによりそこで出会った人の顔を思い出すことができる。**これが国際交流なのか！と思った。今回の研修で一番の宝だと思っている。語学も堪能でなく、人見知りなどがある自分は国際交流というものに少し苦手意識を持っていたが、その大切さがわかった気がして嬉しい。

ベトナムの人々は明るく、社会的で観光客の人にもとても親切だった。日本語や英語ができなくても話しかけてくれたり、現地の学生の方々もみんないつも私たち奈良女子大の学生のことを気にかけてくれた。**もともとはベトナムの文化に興味があり参加した研修だったが、ベトナムに行ったことで、その文化だけでなく、ベトナムの人の人柄も好きになった。**他にも、日本では、ベトナムはバイクとフォーのイメージしかない人が多いが、本当はたくさんの優れた文化を有していることを知れた。例えば、ベトナムの伝統音楽は、今まで耳にしたことがなかったが、とても素晴らしい音色をしており、もっと多くの人にこの素晴らしさを知ってもらいたいと思った。

WHAT THEY GAINED

多面的に考える力や自分をその環境に適應させる力、コミュニケーション能力などを得た学生が多かったようです。

自分の国の文化との違いを感じながらも、他国の文化を受け入れる姿勢が身についたと思います。例えば、バイクの量などの道路状況が日本と全く異なっていて戸惑ったけれど、ベトナムではこれが普通で文化なのだと思えることができました。また食事の時にはどの料理も一口は食べると決めて、好きな料理を見つけようと思いました。他国の文化を積極的に理解しようとする姿勢が身についたように感じます。



自分の意思をはっきり伝える能力がついたと思う。日本でよくある、“なんとなくの雰囲気”で察して”では日本以外で全く通じないことがよくわかった。あいまいに表現を濁したり、恥ずかしがったり怖がったりして言葉にせずにいると、自分の気持ちは全く無かったかのように物事が進んでいくので、いつも“なんとなく”や“相手に合わせる”ではなく、**自分の意思をもってきちんと伝えていかなければならない**と感じた。

まず自分一人で決断する能力がついたと思います。今までであれば誰か自分の知っている人が参加しなければこのような研修に参加しなかったと思いますが、**今回思い切って参加したことによって誰かに頼ろうとするのではなく自分で考えて行動することができるようになった**と思います。パスポートの申請や旅行保険の加入などは期限を考慮したうえで動かなくてはならなかったことや現地で換金をする際に使いきれぬか考えながら換金したりと自分できっちり管理していなければ迷惑がかかるため自分で他人任せにせず自分でどうするか決断しました。

COMMENT

学生達が今回の研修を通して感じたこと、学んだことを紹介します。

今回のベトナム研修では、**今後の学習に生かすことができるようなことが学べ、また今まで興味のなかった分野に興味を持てるような体験をさせていただきました**。個人の旅行では絶対に味わうことのできない体験ばかりでした。海外の企業で話を聞くことも、小さなボートに乗って鍾乳洞の中に入るなんてことは、知らない国を個人で行った時にはなかなか体験できないと思います。ベトナム研修では、先生が美味しいお店やベトナムならではのお店に連れていってくれるので、十分にベトナムを味わうことができました。期間が2週間と少し短かったのですが、今度は個別で来たいと思わせる短さなのでちょうどよかったです。現地の学生さんとたくさん交流することができ、日本の漫画やアニメの話ができたのは楽しかったです。日本のアニメ文化はベトナムでも人気で、世界から評価されていることを実感できて良かったです。体調を崩したことが残念でしたが、楽しい思い出となって今後の生活に生かすことのできる経験となったのでとても満足です。



どの場面においても、英語力の必要性和自分の英語力のなさを感じた。今までは、少し難しい英文を読むようなリーディングに重点を置いた学習をしていたが、**もっと日常会話ができるようになる必要があると感じ、これからはスピーキングとリスニングにも重きを置いて学んでいこうと思った**。また、積極的に学習に参加する姿勢が自分に足りないと思ったので、その点においても、今後の学業への取り組み方について見直したい。



日本とは異なる問題を抱えた国であるベトナムについて、実際に現地に行き、活動を行ったうえでその問題を考えることができたので、日本での就職や、今後の研究での考え方の参考になったと思います。**今回の研修で、大きな問題から対策や解決策を導く力がついた**と思えました。実際に行ってみないとわからないことがあるということを改めて実感し、自分が今後、何かをする際にも推測だけでなく、現地の状況を知ることが大切だと思えました。また、それが今後の活動に役に立つと思えました。

2週間という短い期間ではあったが、観光旅行ではなく、日本から離れて現地の暮らしの中に入って見て過ごしたことは貴重な経験であった。ベトナムで生活してみて、日本とは異なる文化を体感して、自分の物事の考え方や捉え方が変わったり、視野の範囲も広がったりしたと感じた。**その変化のプロセスを体感できたことはこれからの社会で働くうえでプラスになる経験だ**と思う。

奈良女子大学 国際交流センター

NEWSLETTER 特別号 2020年1月発行

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

TEL: 0742-20-3736

Email: iec@cc.nara-wu.ac.jp

<http://www.nara-wu.ac.jp/iec/center/ja/index.html>